

【市議会最前線】開かれた議会・議論する議会・活動する議会＝知立市 (愛知県)

24/09/02 08:00 Ln001

知立市議会が本格的に議会改革を始めて14年目を迎えます。改革の背景は、2000年から施行された地方分権一括法によって、地方分権における市議会の役割・責任の増大、また、議会活動及び議員活動に対する改革の必要性が高まったことを受けて、市議会に対する改革の必要性が言われるようになり、議会や議員の行動指針の明確化が必要にされたことなどにあります。

知立市議会の改革は、議会や議員に向けられた市民の疑問や批判を真摯に受け止め、議会のあるべき姿を追求し、その構成員である議員が自ら行動していくことを特別委員会で話し合い、議会全体の共通認識として始まりました。当初は議会基本条例の制定と議員定数削減が主たるテーマの議会改革も、改革先進市議会の取り組みを参考に量的削減ではなく、質的向上による機能強化が改革の本旨であると気付き、様々な改革に取り組んできました。



高校生議会

知立市議会では、定例会毎に開催する議会報告会は47回を数え、また、市民の声を議会運営に活かす議会モニター制度にも取り組んできました。コロナ禍でも活動を止めないためにデジタル化を推進し、積極的にオンライン化も活用、中でも高校生議会では、慣れないワークショップ形式に取り組み、若き市民の声を政策として実現できるよう、議員と高校生が何度も協議を行い実施しました。

知立市議会だより

かけはし

議会と市民をつなぎ、そして未来へ



知立市議会だより表紙

また、デジタル化については、タブレット端末にペーパーレス会議システムを導入し、紙資料を廃止しました。グループウェアによるクラウドでの情報共有、オンライン会議システムを使った議会報告会や災害対策会議の開催、委員会の先進地視察や講師研修もオンラインで行っています。また、会議資料の共有化により傍聴者にプロジェクターで資料提示を行い、市民からも分かりやすいと評価を得ています。さらに、昨年からは本会議インターネットライブ配信を開始、また、今年度は、市議会だよりのタイトル、ロゴを一新し、掲載内容について読者に寄り添い、読ませる広報紙づくりに向け、市議会だより編集委員会にて協議を重ねています。

今後も市民福祉の増進のため、機能する議会、主催者である住民との対話や交流を推進する議会への進化を目指し、改革に取り組んで参ります。

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。